
高速道路でお昼寝

geinguns

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

高速道路でお昼寝

【Nコード】

N0108D

【作者名】

geinguns

【あらすじ】

バイクに乗ってたからまれちゃいました！！道路でお昼寝させられちゃった！！ほぼ死にかけ！！

俺の好きなもの、
バイク、ロック、パチンコ、小説を読む、

よく考えたら1人でするものばかりだ！
ひとりエッチも好きだし、、、

暗いのかなー、まあ自分でも暗いほうだと思う。
職場でも無愛想で通ってるし。

友達に「普段は静かだが怒ると何をするかわからん」
と言われたことがある。

暗いし、キレると何するかわからんって俺って危ないやつみたいや
ん。

そんなことないのに、
まあナイスガイにはなれないけど。

暗いし、普段本ばっか読んでるおとなしい俺が
ひとたびバイクに乗ると人が変わる。

とにかく飛ばす。飛ばしに飛ばす。

飛ばしに飛ばしまくるのだ。

なぜか前に車がいると気に食わないのだ。

(しかし隼とかベンツA M Gとかかなわないう相手にはおとなしい)

今は年取ったのでだいぶゆっくりになったが

昔はこの性格でけっこうひどい目に逢ってる。

スピード違反で捕まるくらいはいい。

相手はおまわりさん。とりあえず襲ってきたりはしない。

しかし一般人が相手だとそうはいかない。

あおった、あおらないで口喧嘩になることはしょっちゅうあった。

一番ひどかったのは、自動車専用道(ほとんど高速みたいなもの)のうえで

ぼこぼこに殴られたときだろう。

倒れた俺の鼻先を何台もの車が猛スピードで通りすぎていった。

よく生きていたなと警察の人に言われてしまった。

、、、真夏のある夜、深夜1時に仕事を終え俺は通勤に使ってる自動車専用道路を走っていた。

100キロぐらいで流して走っていると、追い越し車線を猛スピードで車が走ってきて俺のバイクを見つけるといきなり前にきてブレーキを踏んだり横につけて幅寄せをしてきたりしてきた。

いつもなら無視してぶっちぎる所だが俺は仕事で疲れてていらいらしていた。

走りながらなんか言ってきたので

俺は叫んだ「車止めて出てこい！ボケが！」

そしたら本当に車を止めて出てきよった。

俺はよくいる族のにーちゃんだと思っていたがそれは大きな間違いだった。

見るからにヤクザでした。しかもでっかい、

俺は激しく後悔した。
そして動揺した。

おりてきたヤクザにおれは「話せばわかる」といおうとした。
そして「はなせば、、、」といった瞬間

腹に一発くらった。

うずくまる俺をあるうことかそのヤクザは

車がびゅんびゅん走ってる道路を俺を引きずって渡り

中央分離帯のコンクリート壁に俺の頭をガンガンぶつけ始めた。

ヤクザの連れのねーちゃんが止めてくれなかったら

本当に殺されていたかもしれない。

最後に俺のバイクに一発けりを入れてヤクザは走り去って行った。

高速道路の上に俺は伸びていた。

アスファルトがやけに熱かったのだけはよく覚えている。

真夏のアスファルトは夜中でも暖かいんだと勉強になった。

そのあと親切な人が救急車を呼んでくれ、俺は病院にいった。

けがは打撲だけだった。まさにラッキーとしか言いようがない。

後で警察に行き長々と事情聴取をされ、

なんと実況見分までしてしまった。

実際に現場に行き、ここで止まり、ここで殴られた、と刑事さん（初めて本物を見た）に説明するのだ。

警察は非常にやさしかった。
いつも捕まる方だったので、警察は被害者にはやさしいということを知った。

半年くらいしてヤクザが捕まったと連絡があり
そいつの弁護士が会いたいと言ってきた。

ヤクザ（本当にヤクザだった）は前科があるので
今度は間違いなく刑務所いきになる。

この嘆願書にきみがサインしてくれば刑務所に行かなくて済む。
もちろん病院代やバイクの修理費は出すから、という話だった。

弁護士が来る前に検察庁で

「検事さん！あなたもぼこられて高速道に置き去りにされた私の気持ち

を考えてください！」

といきまいた俺はそれでも弁護士に文句を言いまくった。

が結局その書類にサインをすることにした。

早く忘れたかったからだ、金に目がくらんだからではない！

無茶は止めて真面目に生きよう。子供も生まれたことだし、
心の底からそう思った。

（後書き）

運転は冷静にしましょう！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0108d/>

高速道路でお昼寝

2011年1月14日21時13分発行